



Newsletter

No.9 (2002.12.10 発行)

JAICOWS 会長挨拶

会長 島田 淳子

皆様、お久しぶりです。遅くなりましたが、Newsletter 9号をお届け致します。JAICOWSは今年も、日本学術会議「ジェンダー問題の多角的検討」委員会と緊密な連携を取りつつ、積極的に活動して参りました。本号には、恒例の総会・会計報告、シンポジウム報告の他に、研究者登録名の通称使用に関する動き、第19期学協会登録様式の変化、JAICOWSへの諮問など、女性科学者の環境改善に向けて、明るい希望が感じられる報告が掲載されております。これらの動きには、JAICOWSの今までの地道な活動が反映されていると申しても過言ではないでしょう。活動を支えてきて下さったのは、会員の皆様です。改めて厚く感謝申し上げますとともに、今後の一層の御支援をお願い申し上げます。

1. 第11回総会の開催

JAICOWS 2001年度(第11回)総会記録

日時 2002年3月25日 13:30 - 13:55
場所 日本学術会議会議室
出席者 岩井宣子、島田淳子、原ひろ子、加藤万里子、
神長百合子、小林和子、酒井玲子、鈴木益子、鳥居淳子、
直井道子、馬場房子、中山栄子、伊藤セツ(出席13名、
委任状出席75名)
司会 中山栄子

1. 挨拶と議長選出

島田淳子会長

原ひろ子副会長(日本学術会議会員)第18期ジェンダー特委の活動を中心に報告と挨拶があった。

議長選出 神長百合子会員が議長に選出された。

2. 活動報告

・2001年度事業報告:伊藤セツ

(1) 会員現勢は、159名である。

(2) 役員会開催は下記の5回であった。

①2001.7 メール会議

②2001.9.27

③2002.1 メール会議

④2002.3.19

⑤2002.3.25

(3) 要望書は下記のように提出した。

2001.3.30日付で「女性研究者の環境改善のための科学研究費のあり方に関する要望書」を、公開シンポジウム参加者一同 代表者 島田淳子名で、日本学術会議増本健全学術体制常置委員会委員長、上里一郎科研費分科会主査、柴田徳思同常置委員会複合領域担当とりまとめ

役に提出した。

(4) NLは2回発行した。

No.7 2001.6.30

No.8 2002.2.28

配付先の整備を行なった上で、No.8から会員外にも150部送付している。

(5) 名簿を2001.6.30日付で発行した。

(6) ジェンダー問題の多角的検討特別委員会(以下ジェンダー特委)、同ワーキンググループ(以下WG)への協力を行なった。学会開催時の保育サービスに関するアンケート実施協力(2001.4月)、210名中136名回収。

(7) 公開シンポジウム 2002.2.35 に実施。

(8) 広報活動HP・マスコミ等:加藤万里子が担当した。

・2001年度会計報告:伊藤セツ

中間報告を板書で行なった。(最終報告は後掲)

・会計監査:袖井孝子・馬場房子会計監査が後日後日行なうが、出席の馬場会計監査から、費目分類の記述について指摘あり、備考欄等で説明するように指摘があった。(会計監査は後掲)

3. 2002年度事業計画:要望書の提出、ニューズレターの発行(2回)、研究者に対する育児援助アンケート実施、シンポジウムの開催。日本学術会議・ジェンダー特委、同WGと協力する、大学評価基準へのジェンダー視点導入の検討、シンポジウムはジェンダー特委からの申し入れで「研究者に対する育児援助」(仮)のシンポが企画されるかもしれないが、役員会に任せて頂くこととなった。

4. 2002年度会計予算:伊藤セツ

板書で行なった。(後掲)

付記:総会および、シンポジウムでJAICOWSに対

するカンパがあった。また書籍の売り上げの収入もあった。詳細は会計報告に記述後掲。

5. その他

シンポジウム：有志要望書の提出——シンポジウムで要望書が出る場合、テーマ、基本線だけ出し、文言はJAICOWS 役員会に任せてもらうことをはかり賛同を得た。

討議：JAICOWS と日本の他の関連女性科学者の会（4 団体あり）の連携をとるべきという意見が出され、検討することとなった。

2. シンポジウム報告

2002 年 3 月 25 日下記シンポジウムを開催した。27 名の参加者があった。

研究の世界における男女共同参画をめざして —学校教育とジェンダーを考える—

日 時：2002 年 3 月 25 日（月）14：00 - 16：30

場 所：日本学術会議(5 階会議室)

共同主催：日本学術会議「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会、社会 法学研連、天文学研連、家政学研連、木材学研連、その他の研連、JAICOWS

総合司会：伊藤セツ（JAICOWS 事務局幹事、第 6 部家政学研連委員）

開会挨拶：島田淳子（JAICOWS 会長、第 16、17 期第 6 部会員、昭和女子大学教授）

挨拶：蓮見音彦（「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会委員長、和洋女子大学人文学部長、第一部会員）

【シンポジウムの主旨】

学校教育の隠れたカリキュラムを含む学校文化におけるジェンダーのあり方が、どのように研究の世界での男女共同参画の促進要因または阻害要因になっているかを考える。そして大学入試や研究者となつてからの職場での諸環境のどのような変化が促進要因として重要であるかを提案する。

司会 村松泰子(東京学芸大学教授)

・パネリストによる話題提供

① 学校教育とジェンダー全般の問題の構造について
館かおる(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授)

② 理数科教育とジェンダー
瀬沼花子(国立教育政策研究所 総括研究官)

③ 関東学院大学工学部土木工学科の事例
昌子住江(関東学院大学教授・工学部第 2 部学部長)

・パネリストの間での討論／質疑応答

閉会の辞 直井道子(第 17、18 期第一部社会学研連委員、東京学芸大学教授)

「学校における男女平等教育の推進」に関する 要望書

平成 14 年 5 月 2 日

殿

日本学術会議「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会等主催公開シンポジウム

参加者有志代表 島田 淳子 (JAICOWS 会長)

貴機関におかれましては、かねてより、学術・研究・教育における男女共同参画に関して、積極的なご努力を重ねておられることに深く敬意を表します。私どもは、去る平成 14 年 3 月 25 日に、日本学術会議の「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会、社会法学研連、天文学研連、家政学研連、木材学研連、文化人類学・民俗学研連、JAICOWS（女性科学者の環境改善に関する懇談会：Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists）の主催の元に、公開シンポジウム「研究の世界における男女共同参画をめざして—学校教育とジェンダーを考える—」（開催場所：日本学術会議 5 階会議室）を開催し、その際、学校教育への男女共同参画のあり方に関して、多角的な議論を致しました。

その結果、21 世紀における持続可能な社会の構築を可能にするためには、科学研究の世界における男女共同参画が不可欠であり、日本社会の各分野が共同して、下記の点について推進する必要性を確認致しました。関係各位にご検討を賜りますよう要望致します。

記

1. 教師の養成及び研修

小学校、中学校、高等学校、大学の段階を問わず、「学校教育とジェンダー」に関する科目やプログラムの導入・開発を、具体的にはかること。

2. 中学生、高校生の進路指導

科学研究に男女共同で従事する展望を生徒に与えること。例えば、大学院進学の可能性について適確に指導する、役割モデルとしての女性研究者も提示する等。

3. 科学研究費や研究助成等

学校教育とジェンダーに関する研究の奨励・推進につとめること。

4. 女子学生の少ない大学や学部・専攻への女性の入学の推進

大学は、積極的な拡大策を検討・実施し、進路・就職先の拡大のための支援を行なうこと。

○要望書の提出先は下記のとおりです。

内閣総理大臣	国立大学協会会長	経済団体連合会会長
内閣官房長官	公立大学協会会長	日本経営者団体連盟会長
文部科学大臣	日本私立大学連盟会長	日本商工会議所会頭
厚生労働大臣	日本私立大学協会会長	関西経済団体連合会会長
通商産業大臣	国立短期大学協会会長	日本青年会議所会頭
日本学術振興会会長	日本私立短期大学協会会長	
日本私学振興財団理事長	国立高等専門学校協会会長	

最近のニュース

1. 学術会議の登録

第19期の日本学術会議会員選挙を控え、学術研究団体の登録申請カードに、女性の割合を書く欄が新たに設けられました。会員や役員に占める女性の割合を記入するため、急いで女性の割合を調べる学会もみられました。申請カードのデータについては分析中です。

2. 通称使用

ジェンダー特委では、会員にむけて「研究者の別姓使用に関するアンケート」を実施しました。結果のまとめは「学術の動向 2001.11 p.88-91」(池内了WG委員長)にあります。その後、2001年度より文科省の研究者登録の名前が通称で認められるようになり、現在では他の省庁でも旧姓使用が可能になっています。その結果、国立大学や研究所で別姓使用の状況がかなり改善されました。しかし、私立大学では改善されていないところも多いため、ジェンダー特委から私大連合等に通称使用の要請文を出しました(2002夏)。

3. 学会大会時における保育室

学術会議会員むけに「『学会大会時の保育サービス』に関するアンケート」を実施しました。その結果については、「学術の動向 2002.4 p.66-73」(池内了ジェンダー特委WG委員長)にあります。

4. 男女共同参画学協会連絡会発足

理学系の学会が上記の連絡会を発足させました。これは応用物理学会、化学会、物理学会という巨大3学会がよびかけて立ち上げたものです。正式参加17学協会、オブザーバー参加16学協会で立ち上げ後、参加数は増えつつあります。当面の活動としてアンケート調査などを計画しているようで、男女共同参画のための新しい関係に期待したいものです。(文責 加藤万里子)

学協会や国立大学における男女共同参画の推進の動向

以下の記事は、『学術の動向』12月号掲載の「男女共同参画特報」からのものです。12月9日(月)開催の編集委員会におきまして、当ニューズレターへの転載が許可されました。

第1回東北大学男女共同参画シンポジウム

2002年9月28日(土)に「第1回東北大学男女共同参画シンポジウム：学問・教育と男女共同参画」が東北大学・東北大学男女共同参画委員会の主催により、仙台国際センター・大ホールで開催され、東北大学における男女共同参画の現状と課題が論じられた。その際、阿部博之東北大学総長は、「男女共同参画推進のための東北大学宣言」を発表した。その内容は「以下のような方針を確認する」としている。

すなわち、

「1. 東北大学は、総合的な知の拠点として、男女共同参画社会の実現に必要な諸分野の研究・教育を推進するため、東北大学男女共同参画奨励賞(通称：沢柳賞)を創設する。また、社会に開かれた大学として、国・地方公共団体や民間の諸機関との協同・連携を図り、ジェンダー学の普及、性差に由来する人権問題の解決等に対して、積極的に寄与する。

2. 東北大学は、すべての活動領域における男女共同参画を実現するため、教職員・大学院生等の人的構成における男女格差の是正、方針決定機関への男女共同参画の推進、研究・労働環境の改善、育児・介護における性別役割分業の改善と両立支援体制の確立等、効果的かつ具体的な措置を講じる。

3. 東北大学は、性別に由来する人権侵害や性差別を撤廃するための措置をとるとともに、男女共同参画推進のための不服申立制度と救済制度を整備する。」という3点であった。

第1回名古屋大学男女共同参画シンポジウム

2002年9月30日(月)に「第1回名古屋大学男女共同参画シンポジウム：男女共同参画推進をめぐる日本の現状と課題、名大の現状と課題」が主催名古屋大学男女共同参画推進委員会、名古屋大学シンポジオンホールで松尾 稔名古屋大学総長の開会の挨拶について活発な討論と提言が展開された。

男女共同参画 学協会連絡会

2002年10月7日(月)には、「男女共同参画 学協会連絡会」設立集会が東京の神田駿河台にある日本化学会7階ホールで開催された。その呼びかけ人となったのは、後藤俊夫応用物理学会会長、野依良治日本化学会会長、北原和夫日本物理学会会長、浅島 誠日本宇宙生物科学会会長、柳田敏雄日本生物物理学会会長、小宮山 宏化学工学会会長、星 元紀日本動物学会会長、遠藤 剛高分子学

会会長、金子章道日本生理学会会長の9人であった。

遠山敦子文部科学大臣自身の挨拶をはじめ、坂東眞理子内閣府男女共同参画局局长、石井紫郎内閣府 総合科学技術会議議員(代読)、黒川 清日本学術会議副会長(代読)の挨拶に始まり、この協議会に正式加盟した14学協会から、男女共同参画の現状と課題が報告された。

これら14学協会とは、化学工学会、高分子学会、日本宇宙生物科学会、日本植物生理学会、日本数学会、日本生物物理学会、日本生理学会、日本天文学会、日本動物学会、日本分子生物学会、日本女性科学者の会、日本化学会、日本物理学会、応用物理学会である。

なお、10月23日の会議で「男女共同参画学協会連絡会」の事務局はこの一年間、応用物理学会が担当し、委員長として小舘香椎子(日本女子大学)、副委員長として遠山嘉一(富士通)の両氏が選出されたとのことである。

(文責：第18期第1部会員 原 ひろ子)

寄贈文献紹介

国立大学協会第3常置委員会(委員長：鮎川恭三愛媛大学学長)の「男女共同参画に関するワーキング・グループ」(座長：丹羽雅子奈良女子大学学長)が、平成14年11月13日付けで『国立大学における男女共同参画推進に関する第1回追跡調査報告書』(B4, 67p.)を発行し、JAICOWSにも寄贈されました。これは、2000年6月の国立大学協会報告書「国立大学における男女共同参画を推進するために」から1年後の進展を見るために、2001年11月に99大学と附属医療技術短期大学を対象に実施され、100%の回答を得た調査結果をまとめたものです。

5色刷りのカラーのグラフが、国立大学のさまざまな角度からのジェンダー課題を統計で示してくれています。結果は、男女の教員比率ではアンバランスの縮小の面でまだ大きな進歩はみられなかったこと、しかし、男女共同参画のための取組に積極的に着手している大学が増えたとしています。

また、この間、女性学長が3名となりましたが、副学長は0にとどまっていることなどが明らかになっています。

<事務局より>

Newsletter No.8 発行(2002.2.28)後、しばらくご無沙汰しておりましたことをお許しください。

この間、2002年3月25日に総会とシンポジウムを開催し、5月2日の役員会で、要望書を作成・提出し、10月12日の役員会で会計の締めや会計監査報告を、予算の確認を行ないましたので、ご報告申し上げます。ニューズレターは、担当の伊藤セツ・加藤万里子・中山榮子が編集しました。

2001年度女性科学研究者の環境改善に関する懇談会会計決算報告

1. 収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異(△収入減)	備考
繰越金	93,677	93,677	0	
会費	600,000	568,000	△32,000	142人分
利子	100	90	△10	
寄付	80,000	90,000	10,000	総会時及び講師より寄付
その他	-	39,800	39,800	書籍売上げ
合計	773,777	791,567	17,790	

2. 支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異(△支出増)	備考
通信費	50,000	9,030	40,970	
Newsletter発行・発送費 (2回)	160,000	126,840 34,970	△1,810	No.7,8 作成費・発行費 No.7 は名簿と合わせ発送
行事費	30,000	106,092	△76,092	シンポジウム講師名分謝金, アルバイト3名支払分
会議費	30,000	0	30,000	行事費に回した
学会業務委託費	400,000	420,000	△20,000	World Planningへ
予備費	103,777	35,739	68,038	銀行口座開設手数料・名簿 作成費
合計	773,777	732,671	41,106	
次年度繰越金		58,896		

2001年度女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 会計監査報告
上記の通り相違ありません。

2002年10月30日

会計監査 袖井 孝子 印
馬場 房子 印

2002年度女性科学研究者の環境改善に関する懇談会会計予算

1. 収入の部

勘定科目	収入予算額
繰越金	58,896
会費	600,000
利子	100
寄付	90,000
その他	10,000
合計	758,996

2. 支出の部

勘定科目	予算額	備考
通信費	50,000	
Newsletter発行・発送費 (2回)	160,000	No.7,8 作成費・発行費 No.7 は名簿と合わせ発送
行事費	90,000	シンポジウム開催
会議費	30,000	
学会業務委託費	420,000	World Planningへ
予備費	8,996	
合計	758,996	

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7

昭和女子大学女性文化研究所内 担当幹事 伊藤 セツ

Tel 03-3411-5096 Fax 03-3411-5347 E-mail jo-2100@swu.ac.jp

<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/jaicows/>

事務センター：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル 株式会社ワールドプランニング

Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

公開シンポジウムのお知らせ

学術の世界におけるセクシュアルハラスメント --加害と被害--

日時：2002年12月24日(火) 13:00~17:00

場所：日本学術会議大講堂

主催：日本学術会議「ジェンダー問題の多角的検討」特別委員会

趣旨：セクシュアル・ハラスメントの問題は、最近になってさまざまな大学・研究機関・学協会で表面化しており、日本の学術研究に大きな影響をおよぼしていることがわかってきた。そこで学術の世界におけるセクシュアル・ハラスメントに焦点をあて、学問の世界に特殊な状況のもとでおこる加害と被害の構造を認識し、より良い学術研究体制を構築するための政策提言へむけた議論を行う。

開会の辞：池内了幹事(名古屋大学教授)

司 会：原ひろ子

あいさつ：日本学術会議 運営審議会委員

講演者：

1. 博士号取得者の被害実態について

加藤万里子(慶応義塾大学助教授、ジェンダー特委WG委員、天文研連幹事)

2. 大学の法的責任 --教育研究環境配慮義務との関連で

松本克美(立命館大学教授)

3. キャンパス・セクシュアル・ハラスメントの解決にむけて

戒能民江(お茶の水女子大学教授)

4. 文科省(私立大学担当)

5. 国立大学等におけるセクシュアル・ハラスメント防止等について

文科省官房人事課審査班主査 出澤 忠

討 論：

閉会の辞：蓮見音彦委員長

問い合わせ先：加藤万里子 mariko@educ.cc.keio.ac.jp
プログラム情報 <http://sunrise.hc.keio.ac.jp/>
慶応大学(天文学教室) fax (045)566-1102 電話(045)566-1135(直通)
ホームページ <http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/>
